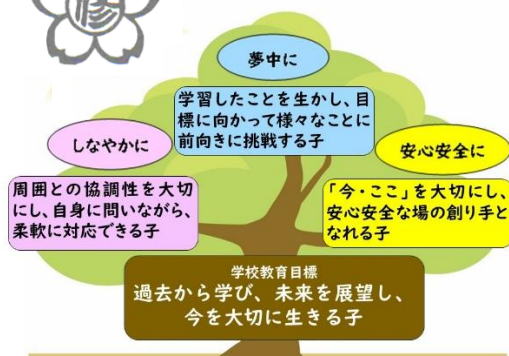




## たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和7年 12月11日  
京都市立修学院小学校  
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.40

### 親切の貯金 ～人とのつながりを大切に～

「親切の貯金」という言葉を聞くと、少し自分のために親切をしているような響きがありますが、そうではありません。これは、私が母から聞いた話をもとに考えた言葉です。

母は福井県の若狭出身で、結婚後は兵庫県伊丹市に住み、兄と私を育てました。母はとても明るく、人との交流を大切にします。（12月のこの時期は家一軒クリスマス仕様になってライトアップされています。）近所の方々や会社の同僚とよく関わり、困っている人には「ご飯を多めに作ったから持って帰ってね」と声をかけたり、休みの日に子どもを預かったり、とにかく人のために動いていました。

高校生の頃、私は母に「どうしてそんなに親切にするの？」と尋ねたことがあります。母はこう答えました。

「あんたたちが家を出たとき、困ったことがあったら誰かが助けてくれるように、私は今、できる限り人に親切にしたいと思っている。」

その言葉を聞いたとき、「損得関係なく、わが子のために徳を積むってすごいことだな」と感じました。高校生なのでかなり前の記憶のはずなのにそのときのことを鮮明に覚えています。実際、そのおかげかどうかはわかりませんが、私はこれまで多くの人に助けられ、支えられてきました。新しい視点をもったり、励まされたり…人との出会いに恵まれていると感じます。（教職員や保護者、地域の方との出会いも私にとって素敵なものが多いです。たくさんの「ありがとう」が集まるという学校のコンセプトそのものです。）

母の姿を通して学んだのは、「うまくいかないときでも人のせいにせず、『おかげさま』を大切にする心」です。小さなことかもしれませんが、私は少なくとも親の姿から感じ取りました。今、私自身も親となり、さらに感じているのは即効性がないことも子育てや教育にも存在しますが、時代を経て届くこともあるということ。わが子がどんな出会いをするのかはわかりませんが、人とのつながりに恵まれるよう、自身が親から受け継いだ大切な子育て観や教育観につながっていくよう私も親切の貯金を忘れずに進めていきたいと思います。

今年も残りわずかとなりました。こうして校長室だよりを書きながら、自分を見つめ直し、志を新たにし来年へ進んでいきたいと思っています。今回は少しエッセイ風になりましたが、たまにはこんな話でもいいでしょうか。



親切が広がるとどんなことが起こるでしょうか